



## 不朽の建築 \_\_\_\_\_ 十三行博物館

十三行博物館は、1990年の十三行遺跡緊急発掘調査を発端として設立されました。当時、政府による汚水処理場建設の計画が持ち上がり、十三行遺跡が候補地として挙げられました。このため、考古学者が遺跡を救うために大きく声を上げたところ、台湾社会から大きな反響があり、遺跡は「国家二級古跡」（現、「国定遺跡」）に指定され、一部が保存されることとなりました。1992年、行政院の決定により、台北県（現、新北市）が遺跡からの出土品を保存・展示するための博物館を建設することとなり、2003年4月24日に「十三行博物館」として正式に開館の運びとなりました。

博物館は建築士・孫徳鴻氏によって、遺跡の発掘と祖先が船で海を渡り台湾へやってきたことをコンセプトとして設計されました。山と海、過去と現在をイメージし、打ちっ放しのコンクリート、砂岩、そして茶褐色の金属板を用いた3つの異なる形の建物で構成されています。

建物全体は地上より1.5mほど下がったところに建てられており、階段を上ってからまた緩やかに下り坂を下りるように設計されています。これは考古学者が地下の発掘現場に向かっていく様子をイメージしたものです。

本館建築の中でもっとも目を引くのが、「鯨の背砂丘展望台」と斜めに傾いた「考古八角塔」です。「鯨の背砂丘展望台」は、海を泳ぐ鯨の背中と十三行人が生活していた砂丘をイメージしており、館外の階段を上ると、美しい夕焼けや淡水河、海、観音山を眺めることができます。傾斜が独特の「考古八角塔」は、破壊されてしまった遺跡と、元の状態には戻らないという歴史の真相を象徴しています。

博物館の建物は、2002年に「台湾建築獎（賞）」グランプリを、2003年には「遠東建築傑出設計獎（賞）」を、そして2014年には「国家建築獎（賞）」金賞の文化教育及び公共建築類金獅賞を受賞しています。それぞれの建物をじっくりとお楽しみください。

# 新北市立 十三行博物館

十三行博物館

### 交通アクセス

#### MRTとバスで

- MRT淡水信義線淡水駅1番出口→渡し船→紅13/バス→十三行博物館バス停
- MRT淡水信義線関渡駅1番出口→紅13/バス→十三行博物館バス停
- MRT淡水信義線関渡駅1番出口→紅22/バス→十三行博物館(仁愛路)バス停→十三行路徒歩5分
- MRT中和新蘆線蘆洲駅1番出口→704/バス→十三行博物館(仁愛路)バス停→十三行路徒歩5分
- 927/バス(三重-八里) →十三行博物館(仁愛路)バス停→十三行路徒歩5分
- 963/バス(板橋-八里) →十三行博物館(仁愛路)バス停→十三行路徒歩5分

#### 車で

- 関渡大橋→台15線を八里方向へ→中華路→文昌路→博物館路
- 台64線快速道路八里インター→中華路→八里大道→商港三路→博物館路

### 所在地

249新北市八里区博物館路200号

電話：886-2-2619-1313

FAX：886-2-2619-5234

E-mail：sshm@ms.ntpc.gov.tw

<http://www.sshm.ntpc.gov.tw/>

[www.facebook.com/13hangmuseum](http://www.facebook.com/13hangmuseum)



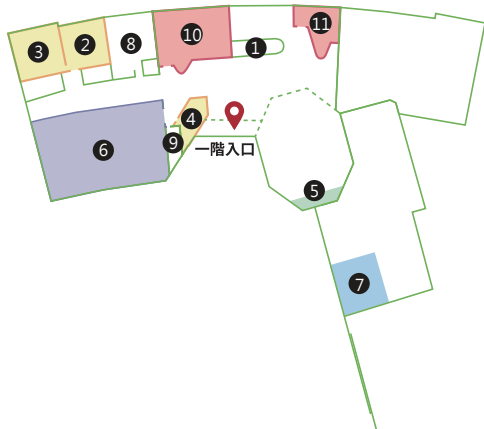
# Floor Plan

## フロアマップ

### 1F

一階フロアマップ

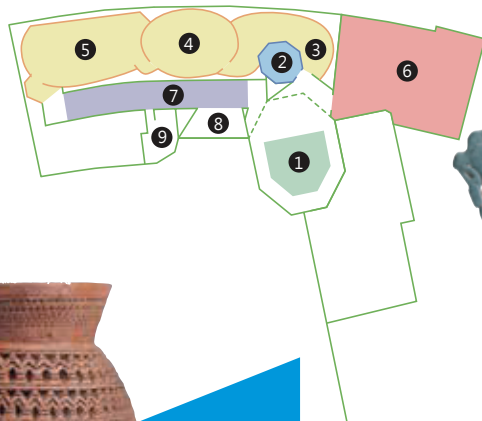
- 1.インフォメーション
- 2.海中奥秘-水下考古展
- 3.第一バーチャル・リアリティ体験室
- 4.第二バーチャル・リアリティ体験室
- 5.文化層
- 6.講堂
- 7.教室A
- 8.お手洗い
- 9.授乳室
- 10.カフェラウンジ
- 11.ミュージアムショップ



### 2F

二階フロアマップ

- 1.考古探坑
- 2.児童考古体験室
- 3.考古学作業体験コーナー
- 4.八里タイムマシン
- 5.十三行の生活
- 6.第一特別展示室
- 7.2階ギャラリー
- 8.休憩エリア
- 9.お手洗い



## 体験型の展示

常設展及び特別展

考古学者は時空の探偵のように、発掘した物や痕跡から証拠を探し、過去の人類がどのように生活していたのかを少しずつ解明していきます。常設展では、考古学者の研究の歩みを展示しています。階段は十三行遺跡の地層を表し、発掘作業の模型を通して、考古学のフィールド作業の様子を伝えます。2階入口にある「児童考古体験室」では砂場を掘りながら、埋まっている土器の破片や石器、動物の骨などを探することができます。また、発掘物を計測、分類し、それを土器に復元することで文物の修復も体験できます。

出土品は計測が終わると、保存や研究の段階に入ります。「考古学作業体験コーナー」では、出土品の特徴や生活用品を作った人類の技術について詳しく紹介しています。出土品を観察したり、実際に手で触ってみたりすることで、考古学者が科学的な方法を用いてどのように過去を認識するのかを知ることができます。

考古学的な研究により遺跡の文化に関する歴史物語を構築します。「八里タイムマシン」では、20万年前の時代にまで遡り、導電性インク、バーチャル・リアリティ、インタラクティブ展示、拡張現実やARサンドボックスなどの技術を用いて、八里の生態資源、淡水河の水運、移民集落、先史時代の十三行生活集落の様子などを描きます。「十三行の生活」展示室では、十三行遺跡の文物をカテゴリごとに展示し、先史時代の十三行人の生活資源や素晴らしい工芸技術、そして交易や生活の様子をわかりやすく紹介します。

本館1階の「海中奥秘-水下考古展(海中の神秘-水中の

考古展)」では、360度のバーチャル海底トンネルを通り水の世界へと入ります。水中の世界、そして考古学者の作業室やバーチャル・リアリティ体験をしながら、水の中に身を置き、水中での考古学とは何かを身をもって体験できます。

第一特別展示室と2階ギャラリーでは、考古学、人類学、民族学に関する文化遺産を再現したテーマ特別展を不定期に行なっています。



## 広々とした芝生

気持ちの良い陽光広場

太陽が燦々と降り注ぐ陽光広場には、さまざまなアートが展示されています。広々とした芝生には、オーストロネシア語族の神話伝説から題材を得たインスタレーションアートが並んでいます。南の島を感じさせる高床式の建物もあるなど、ピクニックや校外学習にも最適です。

## 開館情報

平日、午前9:30 - 午後5:00 (月曜 - 金曜)  
休日、午前9:30 - 午後6:00 (土曜、日曜、祝日)

## 入館料

一人80元 (優待料金等は当館の規定に依ります)

## 休館日

毎月第1月曜日 (法定休日や振替休日と重なった場合は開館し、翌火曜日を休館とします)  
旧暦の大晦日、旧暦の元旦  
当館が別途定める休館日